

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報

第283号  
2024年11月



一般社団法人  
大学女性協会



## 特集 公開シンポジウム

企画担当副会長よりご挨拶・主旨説明……………	2	ヒューマン・ストーリー第9回 ……………	6
基調講演要旨、登壇者から……………	3	加納孝代元会長	
神奈川支部・社会福祉委員会共催講演会報告…	4	支部だより……………	7
文化交流委員会報告		福岡支部、東京支部	
Jカフェ報告、コンサート報告、……………	5	役員選考委員会より、新入会員……………	8
田中正子さんを偲ぶ		パトリア募金寄付者ご芳名、 JAUW 新春のつどい、 収益事業委員会より、理事会から	



# 2024年度 一般社団法人 大学女性協会 公開シンポジウム ウェルビーイングと環境



日時：2024年10月20日（日） 10：30～16：00

会場：エッサム神田ホール1号館・3階 大会議室301号、オンライン併用

## ご挨拶・主旨説明

企画担当副会長 鈴木千鶴子



本日は、多くの催し物があるこの時期に、大学女性協会の公開シンポジウムを選びご参加頂き、真にありがとうございます。大学女性協会では、隔年でそれぞれ開催するシンポジウムとセミナーを1セットとして、“今日の社会が抱える課題の中から重要なテーマに取り組み、成果を報告書として纏め発信”してまいりました。今年も、役員交代の年に当たることから、新たなテーマへ目を向けることとなりました。それは、過去6年間取り組んできた「教育・ジェンダー・共生」の基盤ともなる「地球環境」と、そこに生きる人間一人ひとりの「ウェルビーイング: Well-being (幸せ)」です。

本日は、多くの催し物があるこの時期に、大学女性協会の公開シンポジウムを選びご参加頂き、真にありがとうございます。大学女性協会では、隔年でそれぞれ開催するシンポジウムとセミナーを1セットとして、“今日の社会が抱える課題の中から重要なテーマに取り組み、成果を報告書として纏め発信”してまいりました。今年も、役員交代の年に当たることから、新たなテーマへ目を向けることとなりました。それは、過去6年間取り組んできた「教育・ジェンダー・共生」の基盤ともなる「地球環境」と、そこに生きる人間一人ひとりの「ウェルビーイング: Well-being (幸せ)」です。

確かに「地球環境、殊に地球温暖化による気候変動」は今日の喫緊の課題です。しかし、既に1991年・1992年、今を遡ること33年・32年前に、当時、大学婦人協会の名称だった大学女性協会では、それぞれ故中村ミチコ会長と青木怜子会長の下、「地球環境保護への取組み—女性の役割—」と「環境教育—理念と実践—」のタイトルで第11回・第12回セミナーを開催しています。それらの報告書には、近年の倍の参加者数、多くの支部からの豊富な研究報告と充実した分科会での議論、そして力強い決議と要人にあてた適確な要望書等々、目を見張るものが多々あります。なかでも、それぞれ2題設けられた講演が、現在にも通用する問題提起となっていることに驚喜します。

今回のシンポジウムも環境という、30年以上前と共通の課題を取り上げつつ、大学女性協会の抜きん出た先見性という遺伝子を引き継ぎ、幾世代先にも資することを目指して企画いたしました。基調講演では、自然科学者が捉えている地球環境、温暖化の指数関数的悪化状況と、効果が見通せない現行の対策とを冷静に見極めた上で、地球科学の研究に基づく可能な防御策として太陽放射制御（SRM）について紹介していただきます。パネルディスカッションでは、4名のパネリストとコメンテーターに、専門や年代、経験、立場の異なる多様な観点から、この気候変動に対して、それぞれの知見に基づく確かな事実の報告と素の思いを参加者と共有していただき、基調講演講師による総合所見で締め括らせていただきます。

## プログラム

- 総合司会 秋光正子  
長谷川瑞穂
- 10：30 開会 会長挨拶
- 10：40 第一部 基調講演  
国立極地研究所 特任教授・東京大学名誉教授 近藤 豊
- 12：10 昼食 休憩
- 13：10 第二部 パネルディスカッション 司会 鈴木千鶴子
- 13：15 パネリストの発表  
2.0℃の温度上昇は何を意味するか  
お茶の水女子大学名誉教授 東京支部 今野美智子  
海洋環境への提言～ギリシャユースサミットとタイでの活動から～  
津田塾大学総合政策学部総合政策学科3年 藤巻宇衣  
気候変動による自然災害の被災者支援～持続可能な復興に向けて～  
認定NPO 法人ジェン理事・事務局長 木山啓子  
気候正義 女性だから考えるべきこと・できること  
総合地球環境学研究所特別研究員 京都支部 一原雅子
- 14：55 コメンテーターの発表  
小児科専門医・医学博士 岡山支部 木林京子
- 15：00 休憩
- 15：10 パネルディスカッション ファシリテーター 鈴木千鶴子  
パネリスト、コメンテーター、基調講演講師
- 16：00 閉会





## 基調講演要旨 東京大学名誉教授 近藤 豊氏

### 地球温暖化と太陽放射制御



地球の平均気温は、「地表面での太陽光の吸収による加熱」と「地表面から射出される赤外線が宇宙空間へ逃げることによる冷却」の釣り合いで決まる。CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスは赤外線を吸収し、冷却効果を弱め気温を高める（温室効果）。一方、太陽放射の一部は、地表面に到達する前にエアロゾル（微粒子）や雲により反射されるので、地表面の加熱はその分弱められる。

化石燃料の使用でCO<sub>2</sub>濃度が上昇し、2024年には産業革命前と比べ気温は約1.3℃上昇した。2100年には、さらに気温が2-3.5℃上昇し、甚大な被害が生じるリスクがある。平均気温が2℃上昇すると、北極・南極の氷床の融解、永久凍土の融解、大西洋子午面循環の停止など、主要な気候要素が不可逆的に変質する可能性がある。それらが互いに影響し合い、地球は現在とは全く異なる世界に変貌するリスクがある。

化石燃料の使用でCO<sub>2</sub>濃度が上昇し、2024年には産業革命前と比べ気温は約1.3℃上昇した。2100年には、さらに気温が2-3.5℃上昇し、甚大な被害が生じるリスクがある。平均気温が2℃上昇すると、北極・南極の氷床の融解、永久凍土の融解、大西洋子午面循環の停止など、主要な気候要素が不可逆的に変質する可能性がある。それらが互いに影響し合い、地球は現在とは全く異なる世界に変貌するリスクがある。

一方、大規模な火山噴火により約20km 高度に生成されたエアロゾルにより太陽光の反射率が増加し、約3年にわたり平均気温が約0.3℃低下したことが観測された。この事例から、約20km 高度にエアロゾルを注入し、地球を冷却する方法（Solar Radiation Modification：SRM）が研究されてきた。SRMの実施から数年以内に地球を実質的に冷やせることが数値計算で示されている。SRMは2100年までに起きうる最悪の影響を回避できる唯一の実行可能な方法（救命ボート）であると考えられている。SRMの実施にはSRMを行使する／しない場合のリスクの比較とそれに基づくコンセンサスの形成が重要である。また大規模な気候災害のリスクに備えてSRMを短期間に実施できる準備を進める必要がある。

気候を安定化させていくためには、温室効果ガスの迅速な排出削減を実施し、適応策を進めていくことが必要である。また大気中からCO<sub>2</sub>を除去する技術の継続的な開発も重要である。SRMはこのような取り組みを長期にわたり安全に実施するために必要な補助的な手段と考えられる。

## 登壇者から

シンポジウムに参加した感想をお尋ねしました。

### 今野美智子会員・理事

CO<sub>2</sub>の上昇による地球の温暖化、気候変動について近藤先生は丁寧な解説をされました。温暖化を抑制する対策の必要性を実感し、多様な視点からの講演、会場からの活発な質問で熱気溢れる場となりました。



### 藤巻宇衣さん

バックグラウンドや立場の異なる人々が話し合うことで、多様な視点から新たな気づきを得ることができました。環境問題を自分ごととして捉える重要性が共有され、解決の一步になることを祈るばかりです。



### 木山啓子さん

門外漢にも判り易い基調講演のお蔭で、壇上の発言者だけでなく、聴衆の皆さんも含め、会場全体の熱量が一気に上がりました。目指したい未来に向けて全員で力を合わせれば、現状を変えられると実感できました。



### 一原雅子会員

近藤先生の幅広くも深い最先端の知見についての分かりやすいご講演、多角的に気候危機について討論するパネル、いずれも今後の研究の視野を広める機会となりました。ご企画くださった皆様に深く御礼申し上げます。



### 木林京子会員

気候変動や環境についての最新の知見をお聞きした上で、それぞれ異なる立場や視点からの経験や情報を共有頂くことで、新たな未来への可能性を感じました。準備・企画・運営いただいた皆様にも深謝いたします。



## 神奈川支部・社会福祉委員会共催講演会 「えりちゃん、元気でね」

講師：松尾里美さん

酷暑前の7月15日、神奈川支部・社会福祉委員会共催による講演会を行いました。講師は支部長のかつての隣人、“ママ友”の松尾里美さん。ご長女のえりちゃんが、重症心身障害児・者を対象とする府中療育センターにこの春、入所すると伺い、ご家族のこれまでの過ごし方を語って下さるようお願いしたのです。会当日は、相模大野の“ユニコムプラザさがみはら”の一室がほぼ満席となる会員12名、非会員9名をお迎えし、松尾さんご一家が37年間に訪れた英米欧州豪州、日本各地の名所やスキー場等のスライド53枚を拝見しながら、お話を耳を傾けました。

(神奈川支部長・穂田信子)

神奈川支部が「知らないことを知る」というテーマで開催する講演会について、共催の申し出を受け、社会福祉委員会としても大いに関心のあるテーマであり内容であるので、即座に協力を決断しました。

講演では、重症心身障害児として誕生したご長女えりちゃんの37年間に及ぶ養育に尽力された松尾里美さんの奮闘と、えりちゃんを囲むご家族の在り様を伺いました。重症心身障害児に向き合う親の立場は、想像を絶するようなご苦労があったことと思います。意思の疎通もままならず、夜も熟睡できない生活を強いられた中であっても、今までの来し方を力強くかつ明るく語る松尾さんには、そんな素振りは微塵も感じることもなく、そのメンタルの柔軟さや強靭さに感服いたしました。えりちゃんに障害があると診断された時には「一生分泣きました」が、その後は家族で一緒に広く国内外に足を運び、障害のあるなしにかかわらず様々な体験を共有することで、弟妹が委縮することもなく、ご家族の力強い絆を築かれ、一家で楽しみを味わい尽くそうという強い意思と行動力には脱帽いたしました。

障害児を育てるには家族の努力だけではなく、周囲の理解や支援、環境の整備、社会資源の充実などがが必要です。その点では、えりちゃんが幼少期にイギリスの養育施設に通所したことは、障害の受け止め方や向かい方に大きな影響があったのではと思われます。親と子は必ず別れが待っています。改めて人と人との向き合い方を振返る機会を与えられた思いです。(社会福祉委員長 遠藤理枝)



ユーモアを交え家族の来し方を語る松尾里美さん

## 文化交流は地図から 国境線が消えていくこと

文化交流委員長 建部静代

「文学の中でいくら読み解いても想像することができないのが香道の世界・・・」と某大学院の留学生からの言葉が私の心を捉えた。インド、東南アジアで産出される香木が日本に入ってきたのは飛鳥時代。香道として確立したのは室町時代。

公家の流れを祖とする香道御家流23世宗家三條西堯水先生への企画主旨の説明に留学生の言葉を添えた。「本当にそうですね」と微笑まれて実現したのが源氏物語に因んだ2題。2月18日(日)実践女子大学創立120周年記念館にて(10:15から16:30)実施した。

1) 三條西堯水先生の講演と香席「組香・源氏香を楽しむ」2) 特別講演・佐藤悟先生(実践女子大学国文学科教授)による「源氏物語装束の再現・・・よみがえった女房装束の美」。5年の歳月をかけて「源氏物語」明石の君の装束を再現。あらたに判明したことについて、スライドによる講演。参加者56名。

9月14日(土)「リンボウ先生の留学生のための能楽講座」VOL.5。国立能楽堂にて(10:15から17:30)実施。

能楽堂の講義室において留学生の自己紹介からはじまる。「向日葵」でのランチ交流会では留学生を囲み笑いが絶えない。能楽堂へ移動するこの間に一転して幽玄な世界へ導かれる。13時から 1) 作家林望氏による解説・能楽案内「忠節、友愛、そして悲壮」2) 狂言・薩摩守(大蔵流)3) 能・兼平(観世流)。鑑賞後 4) リンボウ先生の留学生のための能楽講座。参加者35名：内留学生12名(中国3名・台湾2名・ベトナム2名・韓国2名・オランダ2名・コロンビア1名)。



三條西堯水先生を囲んで～香道は「世代も国境もなく共有できる」と宗家。



リンボウ先生の講義は5つの能のテーマから始まった。実際に舞台を踏みながら留学生は熱心に質問をした。



2024年度 Jカフェ〈ゲスト編〉 2024年6月22日(土) 14:00~16:00

## 聖母マリアの晩年 ～東と西の図像交流をたどる～

講師：桑原夏子氏



オンライン（Zoom）で開催された今回のJカフェは東京、岡山からのパブリックビューイング16名を含めて総勢56名の参加者が集まり、画面いっぱい好学の士の熱気が伝わってくる素晴らしい会合でした。

講師の桑原夏子氏（写真）はJAUW2011年度の一般奨学生として選出された後、フィレンツェ大学美術史専攻博士課程を修了し博士号を取得、現在は早稲田大学美術史専任講師としてご活躍です。

講演は膨大な資料と「聖母マリアの晩年歴の図像」をバ

ワーポイントでわかりやすく解説され、被昇天のマリア像から「ローマ文化圏」と「ビザンツギリシャ正教圏」の解釈の違いを初めて伺い、興味深く学ばせていただきました。

また聖母マリアの史料はほとんど残っておらず、各教会に残る言い伝えなどの断片、「偽書」が貴重な資料として研究されてきたとのことに感動いたしました。

質問タイムではマリア信仰や隠れキリシタンの逸話、黒マリアなど博学な参加者たちの疑問に、博覧強記の桑原講師は懇切丁寧に資料を上げながら解説頂きました。

次回、続編の講演会を是非とも実現していただけたらと願っております。（神戸支部 平井典子）

\*第18回Jカフェは2月8日（土）京都支部の佐賀千恵美さんによる「日本初女性法律家たち一虎に翼によせて」の予定。

## 小川葉奈ソプラノリサイタル～バリトン加来徹さんを迎えて～

文化事業委員会 伊藤真理子

超絶技巧のソプラノの転がる唱法コロラトゥーラと堂々としたバリトン。確かな音と見目麗しきお二人。ほぼ満席のホールにいた全員が「絵に描いたような夢のひとつ」を胸にウキウキと帰途につかれたでしょう。10月16日ソプラノ歌手小川葉奈さんのリサイタルが特別ゲストに加来徹さん、ピアノに奥村志緒美さんを迎えてけやきホールで開催されました。すでに多くの国内外のコンクールで優勝・入賞を重ねている小川さんですが、9月1日に行われた東京



文化会館主催の東京音楽コンクール声楽部門で見事第1位と聴衆賞を手中に収められたことは昨年度からリサイタルを企画していたJAUWの幸運。残チケット

の間合せに苦慮する嬉しい悲鳴となりました。

小川さんの美しい日本語が際立つ日本歌曲に始まり、お二人の美しいデュエット、



各国の歌曲で世界を巡り、最後はオペラアリアの超名曲揃い。特に小川さんの「夜の女王のアリア」には「生で初めて聴けた」という感激の声があふれました。（12月7、14日の藤沢市民オペラの「魔笛」で夜の女王役）滅多に聴けない難曲アリアのあと、アンコールのパパパの二重唱のお二人の品の良いかわいらしさ。あの日、会場で生で聴けたことに感謝するコンサートでした。



## 田中正子さんを偲ぶ

元会長・神奈川支部 房野 桂

田中さんに最後にお目にかかったのは、数年前の神奈川支部総会でした。当時田中さんはインフルエンザの後遺症のため、杖をついてのご出席でした。久しぶりの再会が嬉しくてご挨拶しますと、田中さんも、あたりがパッと明るくなるような素敵なお顔を返してくださいました。帰りは、「夫が迎えに来てくれるはず」と。支部の調査研究活動で、夫を「主人」「ご主人」、妻を「家内」「奥様」と呼ぶ差別用語を使わないようにしようとの約束を忠実に守ってくださいました。呼称はともかく、田中ご夫妻は仲睦まじく、御夫君の田中慶一さんが2018年に亡くなられる2日前に正子さんに手渡された遺言は、「この世にありて想うこと、永代に消えることなし、君を想いて」。正子さんへの深い愛情と感謝の気持ちが滲み出ていました。私は田中さんとは、JAUW、かながわ女性会議、日本女性監視機構（JAWW）で常に二人三脚で活動し、有意義な生き方を示していただきました。

\*2004年～2008年に副会長、会長を歴任された田中正子さんが6月19日、87歳で帰天されました。その幅広いご功績は会報250号8頁の「ヒューマン・ストーリー」でお確かめください。





加納孝代24代会長（2020～2022）を文京区本駒込の緑豊かな環境に佇む今井館にお訪ねして歩みや思いを伺いました。

●どのような道を歩まれてこられたのでしょうか

福岡県久留米市で1944年（昭和19年）に年の離れた姉兄の末っ子として生まれました。小学4年生の時に母が急死したのでちょっと寂しがりやの子ども

でしたが、学校の先生や友たちに親切にしてもらいました。中学時代はアメリカ人宣教師のバイブルクラスに通い、高校時代は AFS 留学制度でアメリカ・オハイオ州に1年行くなどしたことが、今の自分にまでつながっているように感じます。

東京五輪の年（1964年）に東京大学に入学した後、聖書研究会に参加しました。それは内村鑑三に発する無教会（礼拝の形式や教会の制度に縛られないという意味）のプロテスタント系キリスト教の1グループで、以来ずっと聖書を学び続けています。

文学部社会学科を卒業後、比較文学比較文化の大学院に進んで2年目に結婚、子育てをしながら修士論文を書き、博士課程修了後は研究室の助手を6年間勤めました。子育て中は保育園のほか、近くにあった津田塾大学の学生さんによるベビーシッターのアルバイトに助けられました。

1983年から青山学院女子短期大学に就職、英文講読、比較文学、比較文化などを教えました。阿部幸子元会長が職場の先輩としておられ、阿部先生には公私多くの場面で助けていただきました。

2013年の定年退職後は長崎の活水女子大学で学長を4年務めました。2017年から東京に戻り、内村鑑三を記念する今井館教友会という NPO 法人の理事、副理事長、理事長を歴任しています。

●ご専門についてお聞かせください

研究分野はマックス・ウェーバーの宗教社会学、日本にキリスト教を伝えたカトリックやプロテスタント宣教師たちの活動、聖書や讃美歌の翻訳、日本人の海外旅行記・外国人の日本旅行記、明治期以降のキリスト教主義女子校における高等教育の歴史などです。学生時代からずっとキリスト教を学んできましたが、キリスト教に限らず宗教は人間の内面を形成する上で大切な要素であると思っています。

— プロフィール —

1944（昭和19）年福岡県久留米市生まれ。1964年に東京大学入学、68年に文学部社会学科卒業、引き続き同大学院比較文学比較文化課程の修士、博士コース修了。

大学1年の時から東大駒場構内の柏陰舎（はくいんしゃ）聖書研究会に参加して「無教会」の内村鑑三に学んだ矢内原忠雄の薫陶を受けた西村秀夫、杉山好（よしむ）、鈴木皇（ただす）先生らの指導のもとに、無教会のキリスト

信者として聖書を読み始めた。

1983年から青山学院女子短期大学の専任教員として31年間勤務。その間、国際比較文学会の日本選出役員として1990年から2010年まで頻りに欧米・南米・アフリカ・アジア各地の理事会に出席。2013年3月に青山学院女子短期大学を定年退職後、4月から長崎の活水女子大学で2017年3月まで4年間学長を務めた。

2018年から20年まで一般社団法人大学女性協会副会長、2020年から22年まで会長。2022年

●JAUIWに入会されたきっかけは

1996年に阿部元会長と一緒に入会しました。学内での諸活動に行き詰まりを感じていた頃です。とはいえ当時は本務も忙しく、JAUIWでは名ばかりの会員でしたから、2018年に副会長を拝命したときは殆ど「新人」でした。その後2020～2022年に会長、現在は国際奨学の委員長をしています。

●会長として力を注がれたこと

JAUIWの定款にある、女性の能力向上、男女平等社会の建設、世界平和の実現、この3つの柱を中心に、個人レベルの向上から日本を良くすること、次に女性が手を取り合って世界を良くすることを目指しました。JAUIWでは会費が高いと言われている中で、取って代わり募金を呼びかけましたが、それは社会を良くするためには自分が自由にできるお金から、せめて1割ほどは寄付をする、というカルチャーが根付いてほしいと思ったからです。

●JAUIWで今後なりたいこと

国際奨学生と直接触れ合う機会を持てるようにしたいと思っています。英語でのコミュニケーションが主になるかもしれませんが、語学が得意な会員の力を借りて、Jカフェなどで奨学生に自分の国について話してもらったり、私たちが質問したりできればよいと思っています。

●JAUIWに期待すること

20～30代の女性にチャンスを与えることが大事だと思います。また定款に掲げてある世界平和の実現が最終目標（ファイナル・ゴール）であることを常に意識したいと思っています。映画や文学や芸術活動を通して幅広く世界の女性たちの姿を知り、共感する力を育てることも大事です。

●今後の課題について

女性と子供が幸福である世界が一番住みやすい世界だ、とかつて恩師に教わりました。女性が望み、子供が願うことの実現を目指せば間違いなく良い世界が到来すると信じます。それを具体化する場を自分の置かれたところで見つけてゆきたいと思っています。一人では社会は変えられませんが、友人を作ってそれが複数になり、みなで力を合わせるようになれば社会は変わってゆく、と思っています。

から国際奨学委員長。

2017年から特定非営利活動法人内村鑑三記念の今井館教友会理事、20年から副理事長、22年から理事長、現在に至る。内村鑑三は制度や組織に縛られないプロテスタントのキリスト教信仰に立って公平と隣人愛に基づく平和な社会の実現を志した思想家。今井館教友会は、内村鑑三と彼に連なる人々の関連資料の保存、その研究・調査、成果の一般公開・普及に努めている。



# 支部だより

支部活動をより活発にするためにご意見、ご提案をお願いしました。各支部の取り組みの参考にさせていただければと思います。(広報委員会)

## 頑張ろう！福岡支部

福岡支部長 石井妙子

福岡支部は総勢20名の組織であり、かく言う私は一番の新参者で、総会の折に役員以外の先輩方と初めてお目にかかり、名前と顔がおぼろげながら分かった状況です。故に支部活動について私なりの理解で紹介させていただきます。年間の事業としては春に総会を開催、公開講座を2回(夏と冬)、支部例会と秋のイベント、役員会2カ月に1回開催、会報を年に2回発行、国内奨学生推薦に関わる作業と会議、外部団体との連携として「参画ネット」と「暴力追放福岡大会」があります。総会は4月に開催予定が、私が支部長になったばかりでもあり5月に名古屋で開催された「第13回大学女性協会定時会員総会」に参加した後という事で5月になりました。場所はホテルオークラにおいて華やいだ雰囲気で開催されました。参加者は、福岡支部を支えてこられた錚々たる顔ぶれで会食の際の四方山話の中に夫々の会に対する熱い想いや支部活動の歴史の一端を汲み取ることができ、その想いを紡いでいく覚悟を新たにしました。公開講座1回目は災害時や介護食や離乳食に活用できる「バッククッキングをしてみよう」というタイトルで私が講師で開催

しました。調理実習を含む講演は和気あいあいで楽しかったです。支部例会と秋のイベントは「柿狩り」の予定です。

Q：現在にもまして活動を活発にするにはどうすればいいですか？

A：大学女性協会を世間にもっと知ってもらう仕掛けが必要だと思う。支部では会員相互の連携を密にするために、自由意志で「グループLINE」に入ってもらい、活用することで情報発信をタイムロスなしに出して自由なコメントで交流している。



講演会での調理実習和気あいあい！

## 引き継いだものを新しいやり方で

東京支部長 鷲崎千春

東京支部は現在会員数174名、ベテランから若手まで13名の支部委員で支部総会、講演会、見学会、会報発行などに取り組んでいます。本年は支部総会の後の講演会に前お茶の水女子大学学長の室伏きみ子先生(東京支部会員)を講師にお迎えしました。秋の講演会は、2008年度のホームズ奨学生で現在は国内奨学委員も務め、そして学会の第一線でご活躍の伊集院葉子様に「古代女性の活躍と采女」と題してお話を伺いました。東京支部独自の奨学金事業として、チャレンジ奨学金があります。企業・官公庁などでの就労後、大学または大学院で学び直す女性、性自認女性を対象とするものです。毎年、優秀な学生が応募し、卒業・修了後は広く社会に貢献しています。6月には、ラジオ放送が始まって来年100周年を迎えるNHK放送博物館を見学し、貴重な体験スタジオを楽しみました。年に2回、支部会報「ともしび」を発行しています。2015年には終戦70年を機に『昭和二十年八月十五日あの頃わたしは』という投稿文集を刊行しました。来年2025年には、終戦80年を迎えます。2025年3月発行の「ともしび」では、テーマ『戦後80年平和を考える』と題して、後ろを振り返るのではなく、今、

そして未来に向けて、「平和」についてみんなで考えてみたいと思います。皆さまもどうぞ投稿ください。外に向けての広報にも力を入れています。

Q：現在にもまして活動を活発にするにはどうすればいいですか？

A：色々な企画に是非ご参加いただきたい。その中で興味を持つ委員会活動があれば、是非その委員会のメンバーになって、そこで意見の交換もして担い手となっていただきたい。ボランティアの集団だからこそ、自分のできる時にできる範囲で活動に関わってほしい。



2024.6 NHK放送博物館にて

役員選考委員会より

役員選考委員長 田邊光子

2024・2025年度の役員選考委員会が次のメンバーで発足しました。

鷺見八重子 城倉純子 端本和子 縄田眞紀子  
坂上栄美子 秋光正子 田邊光子

2025年度総務・会計担当理事の補充候補者2名の推薦依頼

総務理事・会計理事が現在各1名です。役員選考委員会では理事2名を補充することを提案いたします。候補者の推薦をお願い申し上げます。

詳しくは支部長にお問い合わせください。

新入会員 理事会承認 2024年7月～10月

茨城支部 佐藤裕紀子 東京支部 徳山美沙子  
愛知支部 服部 祐季 京都支部 萩原 幹花  
奈良支部 須崎 康恵 神戸支部 河口 沙織  
岡山支部 三宅沙侑美

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリア寄付者ご芳名

期間：2024年7月1日～2024年10月31日

寄付者人数：43名、寄付金額：710,000円

上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別50音順）

(新潟) 登坂美江子 (茨城) 後藤美智子、牧島悠美子 (長野) 三田コト (東京) 安東桂子、遠藤理枝、大井恭子、加納孝代、今野美智子、眞田雅子、嶋田美恵子、庄司ヨシ、高橋真理子、土部元子、中山正子、長谷川瑞穂、村木晴子、森川淳子 (神奈川) 穂田信子、鷺見八重子、房野桂 (京都) 稲葉カヨ、久保宜子、中村泰子、松尾景子 (奈良) 武久文代、中道貞子、森田由躬江 (大阪) 北村美佐子 (神戸) 唐島幸子 (岡山) 江田京子、岡崎優子、長田友子、竹宮ゆき子 (広島) 山手万知子 (大分) 和田輝美 (熊本) 岡本美和、八幡彩子 (福岡) 加藤仁美、榎谷紀子、和栗方子 (長崎) 鈴木千鶴子、平野啓子

全体期間：2021年4月30日～2024年10月31日

寄付者延人数：312名、寄付総額：4,042,600円

寄付金の振込先口座

銀行：ゆうちょ銀行

名義：一般社団法人 大学女性協会

① 払込取扱票（郵便振替）で行う場合

口座記号及び口座番号：00130-0-587701

※パトリア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、そのまま使用可能です。

② 他行から振込の場合

支店名：〇一九店

口座種類及び口座番号：当座 587701

※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

丸大食品 心に残る贈り物

【HA-102】



《丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます》

お歳暮・お中元時期のほか、記念品・新築祝・開店祝  
御礼・内祝・快気祝・各種景品等ご利用下さい。

丸大食品株式会社 中央営業所特販係 担当：棚橋  
〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2  
TEL03(3647)3270 FAX03(3647)3274

JAUW 新春のつどい

2024年度新春のつどいは、学士会館の改築に伴い、下記の会場で開催いたします。

大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2025年1月11日（土）11：00～15：00

場所：KKR HOTEL TOKYO 孔雀の間  
千代田区大手町1-4-1 03-3287-2921

プログラム：2024年度国内奨学金贈呈式

懇親会 その他

会費：12,000円

申込先：大学女性協会 本部事務所へファックスまたはメールで

申込締切：2024年12月16日

振込締切：2024年12月20日（振込完了にて出席）

振込先：三菱 UFJ 銀行四谷支店

普通預金：口座番号1077777

別口 一般社団法人大学女性協会 理事 長谷川瑞穂

キャンセルは3日前までとさせていただきます。

\* 当日収益事業委員会によるバザーを開きます。

国立能楽堂の夏冬特別公演と新春の雅楽について

収益事業委員会委員長 藤谷文子

❖収益事業委員会は例年国立劇場の歌舞伎と文楽公演を開催してきましたが今年は能楽堂に特化して夏秋の公演を皆様へと！8月29日国立能楽堂 夏スペシャル企画公演「講談、落語、狂言」の組み合わせ。違和感があったものの楽しめ、21名の参加で成功！男性も参加あり皆様喜んでいただけました。

12月25日冬の特別公演は、狂言「川上」野村万作（和泉流）能「正尊」観世清和（観世流）13:00開演（定員に達しました）。

❖新春の雅楽のお知らせです。

例年、新春の雅楽は新春の集いと日程が重なり皆様にご迷惑をおかけしていましたが、2025年は日程が変更になりました。雅楽日程は2025年2月8日（土）サントリーホール 14：00開演 東京楽所出演 曲目：管絃と舞楽 S席6,000円 締切：12月15日 お問合せ・お申込みは JAUW 事務所へ

素晴らしい演目に新春の一日をお楽しみいただけたと思います。

理事会から

▶ 9月6日、ZoomにてUWAsia（アジア大学女性連盟）議長国をインドから引き継ぎました。任期は3年間。GWI会長、事務局長らも臨席し、日本側は長谷川会長、大井 CIR、鈴木前 CIR、穂田元 CIRらが出席しました。

▶ 9月21日、Zoomで本年度の委員長会を行い、全17委員会から資料提出による報告がありました。

▶ 来年3月のCSW（国連女性の地位委員会）69会合に、田中優希さんと中川真理子さんの参加を支援する決定をしました。

▶ JAUWの新しいリーフレットが出来ました。ご活用ください。

▶ 丸大ハムのカタログを同封します。ご協力をお願いします。

\* 事務所の冬季休業期間：2024/12/27(金)～2025/1/6(月)

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリア信濃町テラス101

電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889

https://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org

発行人 長谷川 瑞穂 編集責任者 端本 和子

発行日 2024年11月25日